

平成26年4月定例教育委員会会議録

日 時	平成26年4月25日（金） 午後1時30分～2時45分
場 所	秦野市役所西庁舎3階会議室
出席委員	委員長 望月 國男 委員長職務代理者 高橋 照江 委員 飯田 文宏 委員 内田 晴久 教育長 内田 賢司
欠席委員	なし
委員以外 の出席者	教育部長 水野 和成 生涯学習課長 佐藤 正男 教育部参事 小山田幸弘 図書館長 石井 勇次 教育総務課長 山口 均 公民館担当課長 井手 則夫 学校教育課長 片野 新治 教育総務課課長補佐(庶務担当) 鈴木 利昭 教育指導課長兼 教育総務課庶務班主事 松本絵理佳 教育研究所長 柏木 荘一
傍聴者	1名
会議次第	<p style="text-align: center;">4 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議</p> <p>日 時 平成26年4月25日（金） 午後1時30分</p> <p>場 所 秦野市役所西庁舎3階会議室</p> <p style="text-align: center;">次 第</p> <p>1 開 会</p> <p>2 会議録の承認</p> <p>3 教育長報告及び提案</p> <p>(1) 平成26年5月の開催行事等について</p> <p>(2) PPS事業者と電力供給契約について</p> <p>(3) 平成26年度園児、児童、生徒及び学級数について</p> <p>(4) 平成25年度卒園式・卒業式及び平成26年度入園式・入学式の状況について</p> <p>(5) 平成26年度学校教育関係事業について</p> <p>(6) 平成26年度教育支援教室いずみ運営要領について</p> <p>(7) 平成26年度教科学習支援員について</p> <p>4 協議事項</p> <p>(1) 平成26年度教育委員会教育行政点検・評価について</p> <p>(2) 教科用図書採択について</p>

	5 その他 6 閉 会
会議資料	別紙のとおり

望月委員長

それでは、4月定例教育委員会会議を開催いたします。
お手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。
まず、会議録の承認についてですが、ご意見、ご質問等がございましたら、お願いいたします。

—とくになし—

望月委員長

それでは、ないようですので、会議録を承認いたします。
次に、協議事項（2）「教科用図書採択について」は、非公開情報が含まれているため、秘密会での協議としてよろしいでしょうか。

—異議なし—

望月委員長

よって、協議事項（2）については、秘密会での協議といたします。

それでは、教育長に「教育長の報告及び提案」についてお願いいたします。

教育長

それでは、よろしくお願いいたします。
資料1をご覧いただきたいと思います。「平成26年5月の開催行事等について」でございます。

まず、5月1日、臨任運動部活動顧問研修会ということで、西庁舎3階会議室を使って行います。

5月10日、第1回いじめを考える児童生徒委員会を堀川公民館で実施いたします。ご都合がつけばご出席いただければと思います。

5月13日（火）、情報教育担当者会ということで、小中各校から参加いたします担当者の研修でございます。

5月13日、27日は、定例のブックスタート事業です。

5月16日が、2回に分けて、「赤ちゃんといっしょのおはなし会」ということで、「おはなしアリス」と「おはなしころりん」が対応してくれます。5月から11回ですけれども、昨年までは5回だったものが毎月やっていただけることになりました。図書館で行います。

5月18日、たけのこ学級でございます。これは年間で11回開催の予定をしております。

5月19日、南小学校の教育訪問です。これにつきましても、

ご都合がつけばご参加いただければと思います。

それから、2ページに入りまして、5月20日、堀川公民館で行いますが、新採用・転任採用教員研修会でございます。

5月24日、広畑小学校運動会、市内で1校だけですが、この時期に運動会を行います。

同じく5月24日、夕暮祭短歌大会講演会と表彰式を図書館で行います。

5月26日、第1回教育セミナー、幼小中一貫教育研究部員対象で教育セミナーを行います。

5月27日、北小学校の学校訪問です。これにつきましても、ご都合がつけばご参加いただければと思います。

5月30日、5月定例教育委員会会議を予定しております。

5月の開催行事については以上でございます。これ以降につきましては、各担当から説明させます。よろしく申し上げます。

私からは、2番目の「PPS事業者との電力供給契約について」をご説明させていただきます。お配りさせていただきました資料2をご覧ください。

前回、3月19日の定例教育委員会で、入札を行うというご報告をさせていただきました。その入札結果でございます。4月9日に入札を行いまして、結果につきましては、3番に表をつけてございます。小中学校につきましては6社の参加、落札は株式会社F-Powerという会社です。落札額は6,592万5,652円ということで、25年の実績に基づいた予定価格に比べまして1,003万2,626円、約13.2%の削減率になりました。同時に行いました公民館につきましては、6社の参加がございまして、エネサーブ株式会社が落札しました。落札額は2,155万6,027円、前年の価格に比べて452万9,708円、17.4%の削減率になりました。2番目に書いてございますが、26年7月1日から来年の6月30日まで1年間、小中学校、公民館は落札業者と1年間の電力供給の契約をいたします。

参考までに、下に新たな使用電力単価ということで、小中学校、公民館、現行の東電の単価をお示ししました。ご覧いただくとわかりますが、PPSの場合は、基本料金を下げます。いわゆる従量料金、電力の使用量に応じた料金については、公民館分は若干安いですが、基本的には東電の単価と同じです。基本料金の単価が、小学校は約600円ほど、公民館については650円ほど安くなり、総額で小中学校が1,000万、公民館が450万の削減となりました。

公民館担当課長

以上でございます。

今、教育総務課長のほうから説明がありましたが、単価につきまして、小中学校は下2桁までになっていますが、私どものほうは下3桁、4桁まで出ています。結果的に現行の単価は各4桁になりますので、それを2桁に揃えますと、夏季17.118が17.11、その他季が15.9948が15.99となります。48を取っていただければと思います。訂正をよろしく願いいたします。

教育総務課長

3番目の「平成26年度園児、児童、生徒及び学級数について」ですが、まず、幼稚園の園児数及び学級数について、教育総務課からご報告させていただきます。資料3をご覧ください。

幼稚園14園の26年度の園児数でございます。一覧表にございますように、合計欄が網かけになっていますが、4歳児につきましては641人、前年に比べて31人のマイナスでございます。5歳児につきましては691人、同じく3人の減少でございます。合計で1,332人、34人のマイナスでございます。一方で、合計の欄に「人数」と「統合」とございます。「人数」は全部で43人マイナス、「統合」、いわゆる障害を持つ園児は前年に比べて9人ほど増えている状況で、合計で前年に比べて34人減っています。昨年が63人減っていましたので、減少した人数は減少しております。市内にいる4歳、5歳児のうち、公立幼稚園にどのくらい来ているかを示す就園率につきましては、48.5%となっており、昨年もそうだったのですが、50%をわずかに割っている状況でございます。

2番目の学級数につきましては、26年度は、4歳児、5歳児合計で51クラス、昨年に比べて1クラスの増となっております。本町幼稚園で1クラス増えた結果です。

以上でございます。

学校教育課長

私からは、小中学校の児童数、生徒数及び学級数についてご報告をいたします。右肩に「学校教育課」と線で囲った資料をご覧ください。

まず、小学校の普通学級ですが、児童数が8,197人、学級数は263学級で、昨年度5月1日に比べまして48人減、1学級の減です。中学校の普通学級につきましては、生徒数4,075人、学級数は116学級で、昨年と比べまして145人減、5学級の減です。次に特別支援学級ですが、小学校は219人、42学級。昨年と比べまして7人増、3学級の増でございます。中学校は、85人、23学級で、昨年と比べまして2人減、1学級

の増となっております。

次に、外国人在籍者数でございますが、小学校は194人で昨年に比べ12人の増、一方、中学校は86人で昨年に比べ10人の減となっております。小中合わせて22カ国280人です。また、国別で言いますと、資料にはございませんが、多い国から、ブラジルが59人、ペルーが58人、ベトナムが50人、ラオスが20人、ボリビアが16人の順となっております。

最後に通級学級でございますが、末広、西、本町、渋沢の4つの小学校におきまして合計78人、昨年に比べまして22人の増となっております。各学校の詳細は裏面に記載しておりますので、ご覧いただければと思います。

それから、参考までに、本市から私立小中学校への入学者数についてご報告いたします。小学校は13人、中学校は72人が私立小中学校に入学されています。

以上で私からの報告を終わります。

私のほうから、資料4から7までを説明させていただきたいと思っております。

資料4をご覧ください。「平成25年度卒園式・卒業式及び平成26年度入園式・入学式の状況について」ですが、まずは、平成25年度の卒園式・卒業式についてでございます。総体的に言いますと、各園・校とも、工夫を凝らしていただきながら、落ちついた、かつ厳粛な雰囲気の中で、式が挙行されるとともに、参加された方からも大変よかったというご意見をいただいております。

なお、課題といたしましては、例年のものですが、保護者の参加者数が増加、それに伴う体育館会場をどう工夫していくかという点が生じております。また、特に幼稚園では、ビデオ撮影に伴いまして保護者の方がどうしても立って撮影されるということで、子どもが若干落ちつかない雰囲気があったという報告を受けております。また、中学校では、子どもたちがお世話になった先生方にお礼を述べるということで、厳粛な雰囲気の中でそれをどう取り入れていくかというところが、例年ですけれども、課題になっているということが挙がっております。

ページめくってください。次に、平成26年度の入園式及び入学式の状況でございます。卒園式、卒業式と同様に、厳粛な雰囲気の中で、新入園児・児童生徒としての自覚が持てるような工夫を各園・校とも凝らしていただいていると思っております。参加者の感想につきましても、大変よかったという意見が挙がっております。

今後の課題といたしましては、やはり保護者、家庭によってはおじいさま、おばあさまも参加されるということで、会場の工夫をどうするかということが挙げられております。

資料4に関しましては以上でございます。

続きまして、資料5をご覧ください。「平成26年度学校教育関係事業について」でございます。多岐にわたっておりますので、新規もしくは前年度との変更があった部分のみ説明させていただきたいと思っております。

1ページの下から2つ目、幼小中一貫教育を語り合うつどいです。これに関しまして内容をご覧くださいと思います。まず、各中学校で語り合うつどいを設定しております。これは園・校だけではなく、保護者、地域の方も交えて、こういう研究に取り組んでいることを広く周知したい、そういった語り合うつどいを設けております。これを各中学校区で実施いたしまして、全体会は8月19日に予定しておりますけれども、各中学校区ごとに語り合うつどいの取り組み、もしくはその課題等について情報を共有するという取り組みでございます。

次に2ページをご覧ください。(2)教育研究所調査研究事業の1つ目、これは新規事業です。小中一貫教育(地域・郷土)研究部会が今年度より発足しました。内容については大きく2つの柱がございます。1つは、「秦野ふるさとめぐり」という冊子があります。この内容を最新のものに改訂する。2つ目は、昨年、報徳サミットがございましたので、二宮尊徳の教えを子どもたちが学ぶための冊子を作成するための研究部会でございます。

次、5ページをご覧ください。一番上の特別支援学級介助員事業は、特別支援学級数の増加に伴いまして、本年度は2名増員いたしまして41名の介助員にお願いしております。

次に6ページです。(3)委託事業、「子どもの学びを高める授業研究」を新規に立ち上げました。市内の教員が参加する公開授業を実施し、大学教授等の講師からの指導を仰ぐことで、子どもたちの学力の向上を図るという委託事業でございます。

7ページです。3、いじめ・不登校・暴力行為等対策関係事業の(1)会議・委員会の「いじめを考える児童生徒委員会」、5月10日に第1回を予定しております。8月20日、10月25日、11月15日、例年どおり4回開催していくことを考えております。

8ページをご覧ください。5、教育研修事業の1つ目、教職経験者研修会の下から2行目、括弧の中に「3年」という表記があ

りますが、「5年」に訂正いただければと思います。

それから、本日、机上配付させていただきました「平成26年度学校訪問の実施について」というプリントをご覧ください。本年度の学校訪問につきまして、こども園、幼稚園については、原則として3年に1回でこれまでどおりです。ただ、中学校、小学校につきましては、これまでの3年に1回を4年に1回と変更いたします。

それから、「学校規模に応じて午前中の授業からの参観を行う」とありますが、例年は5校時目の授業を指導主事が見て回って、その後、全体会、分科会という組み立てをしておりました。ただ、5時間目の授業を指導主事が回っても、1クラス15分程度しか見られないということで、もっとじっくり授業を見て研究していこうということで、学校規模にもよりますけれども、4時間目と5時間目の授業、2時間見て指導・助言していくと、または研究協議していくというふうに内容の充実を図っております。

続きまして、資料6「平成26年度教育支援教室いずみ運営要領について」でございます。2ページをご覧ください。中段あたりに仮入室とあります。これまで「いずみ」における課題といたしまして、一つは、仮入室期間が長いのではないかとということがありました。仮入室は、「いずみ」という施設に慣れると同時に、個別支援を中心としてエネルギーを蓄え、小集団活動に持っていこうとする、その第一歩が仮入室でございます。長い子ですと7か月ほど仮入室の期間を設定しなければならない子がいます。課題としては、小集団で活動できるように、できるだけ仮入室の期間を短くしていくことを今年度の目標としたいと考えております。

続きまして、資料7「平成26年度教科学習支援員について」でございます。東海大学のご協力をいただきまして、今年度も計画させていただきたいと思っております。

2の(1)対象をご覧ください。今年度は、秦野市内の全小中学校に派遣したいと思っております。また、今年度は、学校が教育課程等教育を実践する中で、こういう学生さんに来てもらえば助かるという要望を事前調査いたしまして、できるだけそのニーズに応えられるような学生さんを派遣したいということで大学の協力もいただき、このような形で取り組んでいきたいと考えております。

2ページをご覧ください。6です。夏季休業・冬季休業の長期休業中においても、今、小中学校では学習会を充てる学校も出て

	きております。そこにも学生さんを派遣できる取り組みがかなうように、東海大学さんのほうにご依頼しながら進めていきたいと考えております。
	私のほうからは以上です。
望月委員長	教育長報告及び提案は以上ですが、質問、ご意見等を受けたいと思います。まず、(1)から(4)までをお願いします。次が(5)から(7)までというふうに分けたいと思います。(1)から(4)まで質問、意見、ございますか。
飯田委員	入学式の報告の中に、本町中と南中の式形式で、司会として生徒さんが入っていますが、これは今年からの試みでしょうか。
教育指導課長	これは学校によりますけれども、南中学校では例年生徒が司会をすることになっております。あわせまして、卒業式も同じような形式で生徒が司会をしております。
望月委員長	他にどうですか。
内田委員	同じく資料4についてよろしいでしょうか。中学校の卒業式のところです。まずは北中学校の今後の課題のところ、歌の演台がないと。これは北中学校の個別の問題ということですか。それともここは工夫のしがいがあるのかどうかです。
教育指導課長	これも学校の工夫等になっております。
内田委員	わかりました。もう一点、広畑小学校ですが、今後の課題で、保護者や来賓の受け付けなどを行う職員の人数が少ないとあります。現状がどうなっているのかちょっと気になったのですが、どうなんでしょうか。
教育指導課長	もともと広畑小学校は小規模校でございまして、それに伴って職員数が絶対的に少ないというところで、準備も含めてなかなか広範に職員を配置できない現状になっております。
内田委員	わかりました。
望月委員長	他にどうでしょうか。
高橋委員	私も同じく資料4でお伺いしたいのですが、「参会者の感想」という枠があります。これは来賓の方でしょうか、それとも保護者の方たちのご意見も入っているのでしょうか。
教育指導課長	さまざまございまして、来賓の方の意見をお伺いしたり、または保護者の方から直接聞いたご意見をこの欄に書いております。
望月委員長	園児、児童、生徒及び学級数、人数ですが、予想していたとおり、幼稚園はつるまきだいと大根が非常に少ないですね。向こうには私学もあるわけですから、ある程度の状況は我々も理解していますが、就園率にしてつるまきだいが26.9パーセント、大

教育総務課長

根が38.4パーセント。上幼稚園は地域性もありますが76.9パーセント、すえひろ幼稚園が60.3パーセントです。これは今始まったわけではありませんけれども、少し委員会としても対応等について考えていく必要があるのではないかと考えています。その辺についてはどうですか。

今のは、資料3の裏の一覧のお話だと思います。つるまきだいは約27パーセント、市の平均が48.5パーセントということで大分下回っているわけです。先ほど委員長も言われたように、もともと市外の伊勢原や平塚に行っているお子さんが多い状況でございます。ただ、現実的にこのつるまきだ幼稚園につきましては、平成20年にこども園化を図りまして、もともと余裕のあった教室を保育園の教室に変えています。学級数が各学年1クラスずつ、36人と36人ということで定員いっぱい状況です。こども園になって保育園の2クラスに変えていますので、物理的に26.9パーセントを変えるということは、現状の中では、私立幼稚園に行っているお子さんを公立のほうに誘導という部分はなかなか難しい。年少・年長で2クラスですが、35人が定員ですので、そのボーダーのところ、今年度はありませんでしたが、去年は35人を超えたので、抽選をやって、何名かは私立なり大根のほうに行っている状況でございます。

望月委員長
教育長

わかりました。

こども園化して余裕教室を保育機能のほうに持って行って、幼稚園の機能の部分はこれ以上増やすことができない状態になっています。35人学級で考えますと、そこに統合して入ってくるという形になりますと、それを超えますと、基準からいうと2クラスになります。2クラスにすると教室が足りない。そのために、今、課長が言ったように、昨年入園された方については抽選になってしまった。途中で辞退される方もあるということで、保育園に行く方もあり、幼稚園に行く方もあり、選択をされている方もいらっしゃると思います。そういう意味では、今後、こども園化されることによって、全体の動きが変わってくる可能性もあると思います。例えば、ひろはたを見ますと、4歳児、5歳児は13人と18人。幼稚園35人で考えると少ないですね。保育園のほうは相当数あります。あそこには保育園が2カ所近くにありますが、ですから、地域性等によって大分違ってくるという感じです。

望月委員長

それから、児童生徒の生徒数ですが、今の時代の世相というものをこの数字が反映している、本市でもそういう傾向が表れていると思われました。と申しますのは、普通学級に入る生徒がいて、

支援級の生徒が増えてくる。その背景にはいろいろありますが、ここ数年そのような傾向が本市にも表れているということを思っています。実際、就学指導委員会でも、特別支援学級に入ったほうがその子にとってもいいのではないかと判定したとしても、なかなか保護者の理解が得られずに普通級という児童も多いのではないかと思います。そういう子どもたちを含めると、この数はもっと増えるのではないかと考えられるわけであります。介助員についても今年は少し増やしていますね。ですから、指導主事で対応することもやらざるを得ないかなと思っています。

それから、卒園式、卒業式、ありがとうございました。かつては、教育委員あるいは教育委員会の職員が幼小中の入園式、卒業式に行っていました。ところが、数も多くてなかなか対応できないということがあり、さらに、ただ一回だけ行って、あそこの生徒は何だったのよ、あそこの卒業式は何だったのかと、とかく学校を評価してしまう傾向があったりして、そういうことはまずいのではないかとということもあり、我々教育委員は、日常的に学校訪問、あるいは教育訪問にできるだけ同行して、学校の全体的な活動等を見てその学校についての判断をするということにしています。

それに伴って、このような資料を作っていただいて、今日も非常に多くの委員から質問があり、資料をつくっていただくことによって我々もよくわかるのですが、これだけの資料をつくるというのは時間的に大変ではないかと思います。ですから、今、課長が冒頭、特徴点や改善点を幾つか述べてくれましたから、今回は、教育委員会議のためにこれを作っていただかなくてもいいのではないかと思います。今のように特徴点や改善点を我々に教えていただいて、これはどうしても資料があったほうがいと判断されたものはつくっていただいて、というふうに考えていますが、委員の皆さんはいかがですか。

高橋委員

私も、これだけの資料をまとめられるのは本当に大変だと思います。これを読んで、インフルエンザの猛威もあったなという思い出すこともあります。教育事業についても、おっしゃったように、ぜひこれだけはというのはお知らせしていただきたいのですが、大体厳かな感じでとり行われたとか、保護者の方の参加が多いことによる悩みもあっていろいろと工夫されていると思います。ですから、変わったことや特別なことをお知らせいただければ構わないと思います。あとは口頭で十分理解できると思いますので、いろいろな問題が挙がっていて大変でしょうし、少し仕

	<p>事を減らすようにしていただいたほうがいいのではないかと思います。</p> <p>それと、質問ですけれども、マスコミで、先生が自分の子どもの入学式に出席したために新入生の担任がいなかったということで随分問題になっています。秦野市内ではどうだったのですか。</p>
教育指導課長	<p>高等学校でのニュースだと思えますけれども、秦野市でどうだったかというのは、現状、調査等はしておりません。</p>
高橋委員 教育長	<p>皆さん、新入生の担任はいらしたわけですね。</p> <p>今回の場合は、高校生のお子さんを持っていて、高校生の担任を持っていたという方で、年齢構成からすると、小中学校ですと、極端な場合はあるかもしれませんが、重なる例というのは少ないのかなと、ニュースを聞いたときに私自身は思いました。実態把握はやっておりませんが、それがあから休んだという実例の報告は来ていませんから、秦野ではないと思っております。</p>
望月委員長	<p>尾木ママは、校長が説得できないのがいけないと指摘していましたが、なかなか難しいですね。あれはあくまでも個人の問題というふうに考えたほうがいいと思います。</p>
教育長	<p>県の教育長は、神奈川県ではありませんが、対応がまずかったという趣旨の発言をされていますね。</p>
望月委員長	<p>そうですか。私とその休んだ先生の立場だったら仕事を優先しますが、あれは個人の問題だから、正面切って言うのはどうかなと思っております。</p>
教育長	<p>保護者が行ってやらなきゃならない手続が高校であるんだということも記事に書いてありました。具体的に保護者が行ってやらなきゃならないような手続は一体どういうものがあるのかと、高校の校長先生に聞いてみようとも思いました。そのために保護者が行くんだという趣旨が書いてありましたから。もし押印が必要だということなら、高校生でしたら本人が持っていけば済むことですから、どうなのかなという気はしました。</p>
望月委員長	<p>休んだ先生の子どもの生育歴とか、今、その子どもがどうなっているのか、親がどうしても行かなければいけないような状況とか、そういうことは全然見えませんから、本人も苦渋の選択だったと思いますよ。そのうちいろいろ週刊誌に出てくるのではないかと思いますけど。ただ簡単に休んだのではないと思います。校長先生も多分そうだったのではないのでしょうか。実際、私が校長をしていたとき、今まで似たような例はありました。仕事を優先してほしいと言っても、奥さんなどの家族にどうしてもだめだと言われるというような相談を受けたりすると、校長としても認</p>

内田委員

めざるを得ないというような経験もしました。ただ、自分がどうだと思ったら、私は休みません。

教育総務課長

生徒数と学級数について質問ですけれども、外国人の在籍状況というところで、今年度は小学校が12人増、中学校が10人減とのことですが、それでも、それぞれ194人、86人ということで、学年で換算すると20～30名はいるようなという感じの数字かと思います。幼稚園のほうはやはり同じぐらい外国籍のお子さんはいらっしゃるのでしょうか。幼稚園ですから余り問題にならないのかなと思いますけれども、現状はどんな状況なのか、もしおわかりであれば教えていただきたいと思います。

内田委員

確かに外国籍のお子さんはいらっしゃいます。人数的な把握はしてございません。あと、言語ですとか、そういった部分で支障があるという話も園のほうからは受けておりません。

望月委員長

わかりました。ありがとうございました。

内田委員

それでは、(5)、(6)、(7)に移りたいと思います。お願いします。

教科学習支援員につきましては、先ほど課長のほうからもお話がありましたけれども、資料7の2ページの6、夏休み、冬休みの派遣について、この辺もできるといいのかなと思っております。今、担当部署にお願いをして、ぜひ学生さん方にもこのあたりの可能性を含めて考えてほしいということで、今、大学学内では進めているところでございます。

望月委員長

資格教育課ですか。

内田委員

課程資格教育課です。ちょうど今、説明会が終わって、来週の月曜日までが募集期間になっていまして、多分、連休明けぐらいから現場に生徒たちが出ていけるのではないかと思います。

望月委員長

課長は今年お見えになったばかりでよくつかんでいないかもしれませんが、担当の先生にいろいろ聞いてください。

内田委員

昨年度の結果に関して、ほとんどの学生がうまくやっていたのですが、1、2名すぐにやめてしまった学生もいたと聞いておりました、今年は、各学科から推薦してもらって学生を選出してもらおうということで、昨年度より各学科には十分伝達されていると思いますので、ぜひ今年もお願いします。全体としては昨年度うまく行ったのではないかと感じております。

望月委員長

東海大学は秦野市をまず優先しています。東京のある区の中学校からも依頼がありました。医学部のある先生に話をしたら、「先生、秦野市が最優先ですから、まず秦野市を優先していますから、そっちは断ってください」と言っていました。ですから、安心し

教育長

てください。

昨日出席した中地区の教育長会議の際に平塚市の教育長から聞きましたが、ダンスと武道の講習を引き続きやっていただく際に、大磯、二宮も含め、範囲を広げていいですよという答えをいただいたということでした。

望月委員長
教育長

大磯、二宮もやりたいということですか。

そうです。同じ中地区管内ですし、すごい先生方が教えていただけるということだから、ぜひ参加をと思っております。

望月委員長

ほかにありますか。5ページの部活動の件ですけれども、ちょうど今新学期が始まったばかりで、各中学校の校長は、頭を悩ませているのではないかと思います。どうですか、今の状況は。特段、教育委員会のほうに、今、バレー部や柔道部の顧問がいなくて困るから誰か探してくれないかとか、あるいは、例えばサッカー、野球で休部にしてもらっては困るけれども、なかなか指導者がいなくて困るとか、4月から現在までの状況の中で、学校現場で困っているようなことは聞いていますか。

教育指導課長

教育課程が成り立たないような事態が発生しているかという点、それは聞いておりません。ここにも載っていますけれども、部活動指導協力者派遣事業及び運動部活動顧問派遣事業、これを活用することによって賄われているのではないかと考えています。どこの中学校でも1つの部活に主になる顧問とサブになる顧問の2人体制でやっていると思います。というのも、一人が出張した場合どうするかという問題がありますので、2人体制でこの時期を踏まえながら賄っているというところが現状で、深刻な問題点は聞いておりません。

望月委員長
内田委員

ほかにどうですか。

以前、給食費の未払い問題等があったかと思いますが。4月から消費税が増税になったということで、新年度が始まったばかりでまだよくわからない部分もあると思いますが、消費税増税あるいは経済低迷で、ランドセルを買わなきゃいけないとか、いろいろな教材を買わなきゃいけないとか、家庭の負担も少なくないところがあって、特に外国人のご家庭あるいは収入に苦労されているようなところは、消費税が上がった今年度以降、何か影響が出ているのかというようなところはいかがでしょうか。

学校教育課長

4月に異動してきたばかりなので詳しくはわかりませんが、4月に入って20日過ぎましたけれども、委員がおっしゃったような、消費税が上がったことで給食費が払えないといったようなお話は、具体的には私の耳には届いてございません。

教育長

新聞報道では、幾つかの市が値上げということが書いてありました。基本的に学校給食会がどうするかということになりますが、秦野の場合は、消費税が上がった分を中で吸収をするという手法です。ただ、これが来年10パーセントになったときに、どこまで耐えられるかというのはあると思います。ましてや、例の牛乳の問題もありますけれども、総カロリーで牛乳と何と何をという計算式でやっていますから、牛乳がなくなるとその分減ってしまいますから何かで補充しなくてははいけない。当然のごとく、金額は総トータルの中でやらなければならない。10パーセントになったときにはやはりご相談をするような場面が出てくるのではないかという気がしています。今のところは何とかどこも3パーセント分は耐えてやっているというところですよ。プラス5パーセントになると、ちょっときついかもしれません。

望月委員長

いいですか。他にいかがでしょうか。

—特になし—

望月委員長

それでは、教育長報告に対する質問、ご意見はこれ以上ないようですので、次に協議事項のほうに入らせていただきます。

「協議事項（1）平成26年度教育委員会教育行政点検・評価について」の説明をお願いいたします。

教育総務課長

協議事項（1）という資料をご覧ください。点検・評価につきましては、平成20年から、地方教育行政法の規定に基づいて毎年度実施しているものでございます。26年度の実施について協議をいただくということでご提案させていただきました。例年ですと5月の定例教育委員会会議でお話をさせていただいている部分ですが、今年度からやり方を若干変えるということで、本日提案させていただきました。

まず、（1）の目的は、教育委員会自らがその活動を充実させるとともに、説明責任を果たすことを目的としている。

（2）の点検・評価の対象は、25年度の「基本方針・主要施策」と「教育委員会の活動状況」ということで、これも変わりはありません。

（3）は点検・評価の主体ということで、まず、事務局の各課における自己評価を実施しまして、それを前提に、従来、学校や関係の協議会等の内部評価を実施していましたが、その部分についても新たに「点検・評価会議」を設置して評価を行うとともに、従来どおり、学識経験者等の意見を活用しながら、最終的に教育委員会自らが点検・評価を行うということでございます。

進め方は（4）にございますが、アで各課による自己評価、イ

で学校教育関係者、生涯学習関係者により組織する「点検・評価会議」による評価を実施する。例年どおり、学識経験者等による総合的な意見・評価、教育委員による点検・評価という流れで実施していきたいと思います。

おめくりいただきまして、2ページ目、点検・評価会議と学識経験者による総合評価という部分を抜き出して書いてございますが、まず、点検・評価会議、これは先ほど申しましたように、内部評価にかわる検討組織を新たに設けて実施していこうという運びでございます。今までは、すべからく36の園・小中学校と社会教育委員、図書館協議会委員で内部評価を実施していただきましたが、本年度からは、学校教育関係者、それぞれ園長会、校長会、そういったところの各種別の代表、また、社会教育委員、図書館協議会委員、PTA関係の方、元学校長、こういった方による点検・評価会議を設置させていただいて実施していきたいということでございます。

流れとしましては、1回目の評価会議で、自己評価に基づいてご説明をさせていただいて、各委員による点検・評価をやっていたら、2回目の会議の中で最終的に点検・評価会議の評価をまとめ上げていくことを考えております。従来やっております学識経験者による総合評価につきましては、今年度も同様に、学校教育関係の学識経験者が1名、生涯学習関係が1名、計2名で実施していくことで進めていきたいと考えております。

4ページ、5ページにつきましては、点検項目の中の主要施策の一覧でございます。それぞれ基本方針に基づいて22の施策がございます。これにつきましては、従来ですと予算の事業単位で施策を抜き出しておりましたので、45項目ほどありました。それをまとめる部分もありますし、主要施策ということでの重点化・明確化を図るということで、昨年度から約半数程度にしております。本年度につきましても、同様に25年度の22の施策について評価を実施していきたいと考えてございます。

6～9ページについては、昨年見ていただいて、施策の概要や取り組み、改善事項という部分が、事業を相当詰めて書いて、細か過ぎるというご意見が多くありましたので、基本的なところは変わっていませんが、自己点検・評価の際に、シートを6、7ページのような形にしたいということでございます。

10ページは、例年の流れになりますけれども、6月上旬から7月上旬に、内部評価にかかわって点検・評価会議を入れております。他の日程については例年どおりの日程でございます。

望月委員長
内田委員

よろしくご協議のほど、お願いいたします。
本件について何かご意見、ご質問などありますか。

教育委員会の点検・評価ですが、これは他市の教育委員会でも同じような感じで行われているのかどうか。もし行われているとしたら、他市と比べたときに秦野市の特色等があれば教えていただければと思います。

教育総務課長

教育総務担当課長会議がございまして、昨年度、他市はどのような形で実施していますかという投げかけをさせていただきました。主目的としては、どういう項目をピックアップしてやっているかということを知ることでした。うちのようにある程度基本目標に沿って例年と同じような部分をやっていくのか、それとも、例えば今年は「いじめ」、来年は「特別支援」と絞って実施するのかを伺いました。その中では、それほど絞っているところはございませんでした。逆に秦野のやり方を、非常に細かくやっていて大変でしょうというような状況でございました。他市ですと、先ほど言いました評価会議が最終的に全部評価してしまうという場合が多かったです。自己評価の後、内部評価をやって、自己評価をしているという形をとっているところは意外と少なく、内部評価をやって、その後、点検・評価をやって、そこに有識者が入っていただいて、そこに評価が加わるという部分が多く、主要施策を並べて細かいシートをつくっているところはあまりなく、他市から秦野市を参考にしたいという話が出たような状況でした。

望月委員長

昨年の6月あたりでしたか、ある市の市議会議員が秦野市の教育委員会の傍聴に見えまして、そして、ちょうどこれを議論しているところに遭遇したんです。秦野市のこの評価の取り組みは非常に素晴らしいという感想をいただきましたね。今、課長もおっしゃったように、私もいろいろと聞いてみる中では、秦野の取り組みというのはかなり綿密にやっているなという印象を持っています。それだけ関係者は大変ですけれども、それはそれで意味があるのではないかと個人的に思っています。

他にどうでしょうか。

それでは、その他、何か案件がありますか。

教育指導課長

それでは、右肩に「その他」と書いてある資料をご覧くださいればと思います。こちらに関しましては、平成22年度全国学力・学習状況調査結果の扱いに関する決定書に対する抗議文が4月14日付で送付されましたので、報告させていただきます。ご覧いただければと存じます。また、同様の文書がほかにも3通届いて

おりますので、あわせて報告させていただきたいと思います。また、抗議文の扱いにつきましては、再度、委員会のほうで説明させていただきたいと思います。

以上です。

望月委員長

これについてはまた様子を見てということですね。「教育関係ニュース」で、いつもいろいろな新聞から切り取っていただいて大変ですけども、我々もこれを見て、各新聞の比較などもできてありがたいと思っています。この件については、朝日新聞と読売新聞のアンケート結果があります。朝日新聞と読売新聞の今週の月曜日か火曜日に、全国の学力調査についての各市町村の公開・非公開というのがありました。読売新聞と朝日新聞を比べてみると、違いがあつてかなりおもしろいんです。そういうものはこれを議論するときに比べやすいのではないかと考えています。

教育長

一点いいですか。昨日、実は教育長会議があつて、コピーをしてお渡しできればよかったです。まだ用意できていないので後程お渡しします。小学校と中学校の教員の年齢構成についてです。小学校は43歳が中地区で12人しかいない。中学校は43歳、44歳が5人しかいない。ここのピークが退職しますとがくっと年齢構成が変わります。何とかこれを解消したいと言っているんですが、採用のほうは順調にいくのかというと、どうもそうではないんです。いずれにしても、校長たちにも話をしていますが、早く若い方々に、研修とかいろんなことを通して、あるいは校長が指導して、ベテラン教員になってもらわないとどうにもならない状況が来てしまいます。

望月委員長

それは中地区ですか。

教育長

中地区です。

望月委員長

では、後でコピーを読ませていただきます。

他に何か案件ございますか。

学校教育課長

教育関係ニュースの26ページをご覧いただきたいと思います。下段に「給食牛乳『味違う』』という記事がございます。この経緯について簡単にご報告させていただきたいと思います。

新聞報道等で既にご承知かと思いますが、23日に、川崎、相模原、厚木市の小中学校の給食で提供されました牛乳の味がいつもと違うという訴えがございました。該当の牛乳は、海老名市にございます雪印メグミルク海老名工場で22日に製造された牛乳ということです。この3市のほかに、伊勢原、海老名、座間、愛川、清川、秦野市におきましても同じものが提供されております。

これを踏まえまして、業者は、出荷前の検査では衛生上の問題

は少ないが、念のため出荷を自粛する、原因を調査したいという発表がございました。その発表を受けまして、秦野市では、小学校、中学校と相談した上、昨日提供の牛乳の中止を決定しております。牛乳の提供は、結果がわかるまで当分の間中止ということを決断しております。また、保護者宛てには、水筒を持参していただくという通知をしております。調査の結果が出ておりませんので、調査の結果を踏まえまして、小中学校と協議の上、再開について検討してまいりたいと思っています。

以上でございます。

望月委員長

これは承知しておけばいいですね。他にありますか。

—特になし—

望月委員長

それでは、秘密会といたしますので、関係者以外の退席を求めます。

—関係者以外退席—

[削除]

望月委員長

それでは、以上を持ちまして、定例教育委員会を終わります。